

# 金剛萱遺跡の旧石器文化6—2020—

Palaeolithic Culture of the Kongogaya site 6, 2020

金剛萱遺跡研究会\*<sup>1</sup>

Kongogaya site research group

キーワード：旧石器時代，石器，発掘，無斑晶質安山岩，接合資料

Key words : palaeolithic, stone tool, excavation, aphyric andesite, refitted artifacts

## はじめに

- 1 本書は，金剛萱遺跡における旧石器時代の遺跡調査に関わる報告書であり，2020年分をまとめたものである。
- 2 調査は，金剛萱遺跡研究会が下仁田町教育委員会の指導・協力をを受けて実施した。
- 3 本書は，調査によって確認された遺物とその出土状況を中心に，基礎資料を提示することに重点をおいた。
- 4 調査によって出土した諸資料は，下仁田町自然史館で保管している。

## 調査の経過

金剛萱遺跡は2007年8月にその存在が知られ，2009年4月に遺跡であることが判明し，金剛萱遺跡研究会が結成された。2009年11月の調査で旧石器時代から縄文時代の遺物散布地が広がっていることが推測され，下仁田町教育委員会が金剛萱の北麓の平坦な緩傾斜地から山頂まで含めたエリアを金剛萱遺跡として埋蔵文化財包蔵地に登録した。

林道地点は2011年5月に大露頭より1段高い緩傾斜地の中で下仁田ローム層上部層まで削られた切り通しの作業道で発見された。2011年～2013年の発掘成果は，金剛萱遺跡研究会（2016）に，2015年～2016年の発掘成果は，金剛萱遺跡研究会（2017）に報告した。2017年4月（第6回）と同年10月（第7回）の発掘調査の成果は金剛萱遺跡研究会（2018）に報告した。2018年4月28日～4月30日（第8回）と同年10月28日・29日（第9回）の発掘調査の成果は金剛萱遺跡研究会（2019）に報告した。2019年4月27日～4月29日（第10回）と同年8月31日・9月1日（第11回）の発掘調査の成果は金剛萱遺跡研究会（2020）に報告した。

本報告は，2020年10月2日～10月4日の地質調査（第12回）の成果を記載する（第1表）。

## 遺跡の環境

下仁田町は地質上，西南日本と東北日本の接点にあたり，ほぼ東西方向に中央構造線がとおり，その一部分である大北野—岩山断層より南側には，三波川結晶片岩・御荷鉾緑色岩類や秩父帯などの古期岩

2021年2月13日受付。2021年3月1日受理。

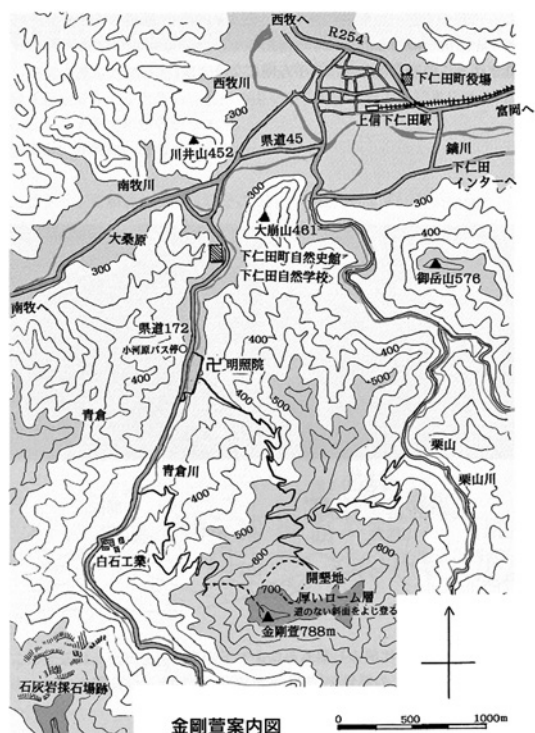
\*1 事務局：〒370-2611 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1 下仁田町自然史館 中村由克気付  
c/o Yoshikatsu Nakamura, Shimonita Museum of Natural History, 158-1, Aokura, Shimonita-machi, Kanra-gun, Gunma, 370-2611 Japan (naka-m@opal.plala.or.jp)

執筆者：麻生敏隆，須藤隆司，小林忠夫，中村由克<sup>○</sup>，齋藤尚人，寺尾真純

<sup>○</sup>執筆責任者

第1表 金剛萱遺跡林道地点の調査経過

回	期間	人数	出土点数	人工品	おもな出土品
第1回	2011.9.23-25	17	21	10	剥片, 石斧調整剥片?
第2回	2014.11.22-24	21	11	4	局部磨製石斧, 剥片
第3回	2015.11.21-23	37	10	6	剥片, 石斧調整剥片?
第4回	2016.4.29-5.1	21	12	10	剥片
第5回	2016.10.29-30	9	7	5	削器, 剥片
第6回	2017.4.28-30	17	16	15	折断剥片, 剥片
第7回	2017.10.28	6	5	5	折断剥片, 剥片
第8回	2018.4.28-30	25	23	19	折断剥片, 剥片, 碎片
第9回	2018.10.27-28	8	2	2	折断剥片, 剥片
第10回	2019.4.27-29	21	35	34	折断剥片, 剥片, 碎片
第11回	2019.8.31-9.1	11	7	7	二次加工剥片, 折断剥片, 剥片
第12回	2020.10.2-4	10	19	17	折断剥片, 剥離痕のある剥片, 碎片
		203人	168点	134点	
	期間	人数	場所	主な調査内容	
調査	2015.4.11-12	27	金剛萱	試掘調査, ハンドオーガー調査, 地すべり調査	
	2017.9.23-24	9	馬山, 町内	遺跡分布調査, 段丘分布調査	



第1図 金剛萱遺跡林道地点の位置

類がつくる山地が分布し、金剛萱の山頂から遺跡のある緩傾斜地は秩父帯の分布域にあたる（金剛萱遺跡研究会ほか編 2014）。

調査地の金剛萱は鑓川支流の青倉川東にそびえる標高 788 m の独立峰で、山頂のすぐ北側には緩傾斜地が広がっている。今回の発掘地・林道地点は2か所の畑地（コンニャク畑地点）よりさらに高い場所にある平坦な場所である。東西方向に延びる金剛萱の山頂部の北斜面が大規模地すべりにより急斜面となっている（大規模地すべり研究会 2016）が、その斜面直下に広がる平坦地の一角に当たる（第1図）。調査地付近は地形図以上の正確な標高が求められず不明であるが、国土地理院の電子国土 WEB から読み取った標高は、コンニャク畑地点が約 680 m、林道地点が約 695 m である。

下仁田地域で遺跡が多く立地するのは、鑓川右岸の馬山丘陵である。下仁田 IC の場所にある下鎌田遺跡から南西に長尾根遺跡、観音寺原遺跡、富士塚遺跡、米山遺跡など縄文時代と古代を中心とする遺跡がほぼ連続的に分布する。下鎌田遺跡と米山遺跡では発掘調査時に旧石器時代の遺物も少量ではあるが出土している。富岡市域にあたる鑓川左岸や丹生川流域にも縄文や平安時代の遺跡が散在する。現在までに下仁田町では、旧石器時代の主要な遺跡は金

剛萱遺跡と下鎌田遺跡、米山遺跡の3か所が知られている。

### 金剛萱遺跡林道地点の調査

#### 1 調査地の状況と調査の概要

発掘地（林道地点）は、下仁田町大字青倉金剛萱1031番地にあり、針葉樹の植林のなかにある。広いコンニャク畑（コンニャク畑地点）より南側にあたり、未舗装の作業道の敷地である。この場所では作業道は原地形をかなり削って通っていて、道路面は掘削された場所で、下仁田ローム層上部（関東火山灰グループ 2009）が露出している。したがって、道路面をそれほど掘削しないでも目的とするAT層直下の暗色帯が調査できる状況となっていた。

発掘地における地質層序は、作業道部分では地表からかなり削平されている状態であった。上位より表土が20~0 cm、20~10 cm黄褐色ローム層、20~0 cm褐色軽石層（浅間板鼻褐色軽石：BP）、20 cm黄灰色ローム層、13 cm赤褐色軽石層（浅間室田軽石：MP）、10 cm黄褐色ローム層、5 cm±明褐色砂質風化火山灰層（始良Tn火山灰：AT）、15 cm黄褐色ローム層、10 cm暗褐色ローム層（暗色帯）、4 cm±明黄褐色軽石層（Yt-Pm4）、25 cm暗褐色ローム層（暗色帯）という層位である。剥片等の遺物は、このAT層準から下位の暗色帯付近から多く出土しており、特にYt-Pm4付近が安山岩石器群の生活面とみられる。

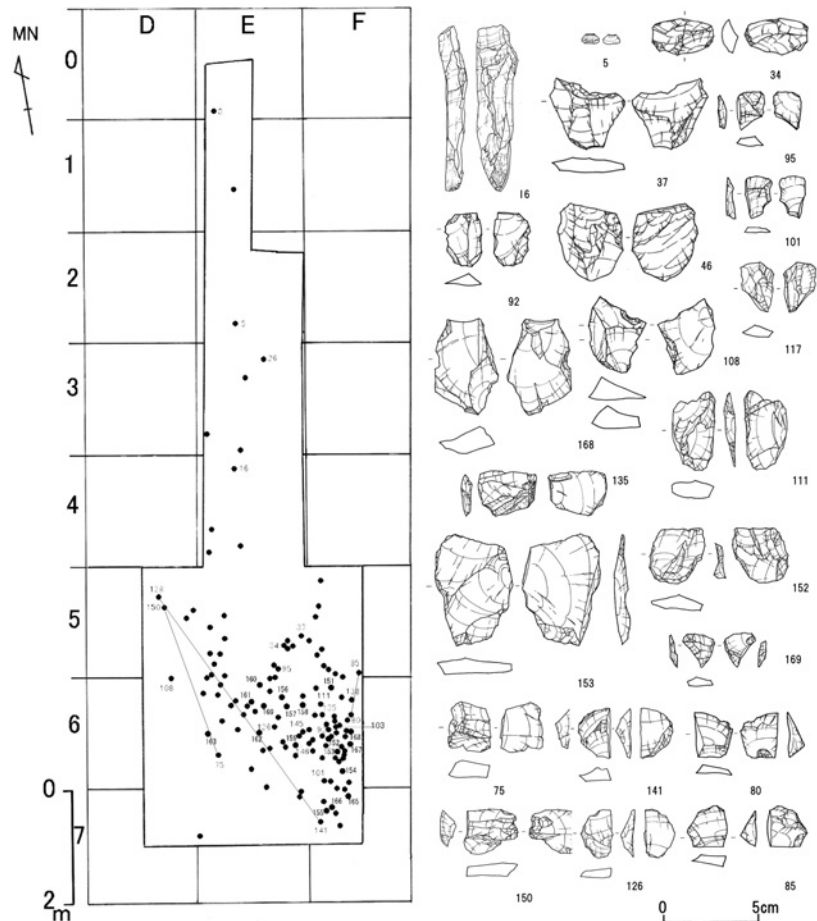
#### 2 林道地点の調査経過

地質調査（第12回）（2020年10月2日~10月4日）：作業道がローム層まで削って作られている場所に、道路部分にそってほぼ南北方向の

調査区を設定。2019年までの発掘地の中で遺物包含層の掘り残し部分を掘削した。掘削はすべて手掘りで、遺物包含層が予測されるYtPm-4層準を掘りきるまで全体を掘り進めた。今回は年代測定用の炭化物の採集を目的としたが、炭化物は得られなかった。無斑晶質安山岩製の折断剥片、剥片等が出土した（第2図）。

当初は春と秋に2回の発掘調査を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、多人数での発掘作業が困難となり、少人数での地質調査という形で実施した。

なお、遺物の垂直位置は、第1回発掘以降、調査グリッド北西端のA杭（E0より1 m南）を基準として、+200 cmにレベルを設定して発掘地および出土品の位置を計測している（金剛萱遺跡研究会 2017）。



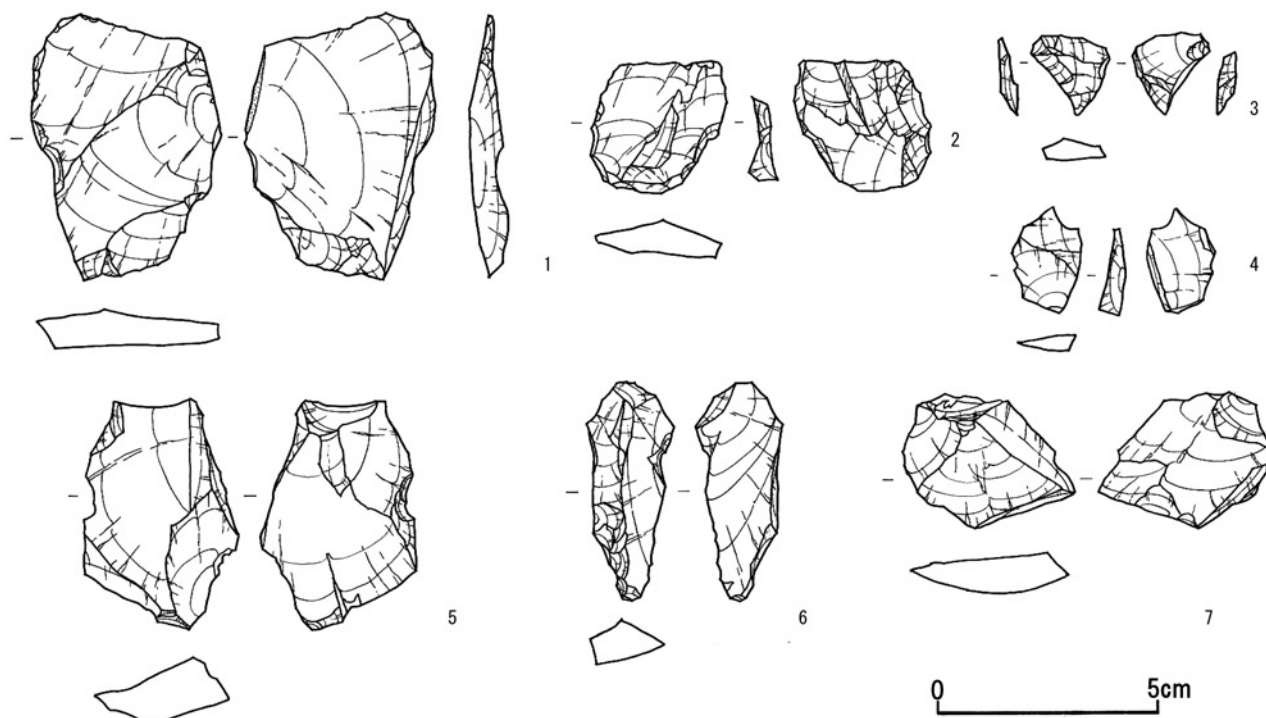
第2図 金剛萱遺跡林道地点の石器分布図

### 3 旧石器時代の遺物

金剛萱遺跡林道地点の地質調査（第12回調査）で出土した資料は、総数19点である。緑色岩の石片2

点を除き、他はすべて無斑晶質安山岩製である。

以下は第12回調査で出土した主要な遺物を記載する（第3図、第2表、第4図）。



第3図 第12回調査出土遺物の実測図

第2表 金剛萱遺跡・林道地点第12回調査出土の遺物一覧

No.	図版	遺物番号	名称	石材	長さmm	幅mm	厚さmm	重量 g	深度cm	備考
1		KON2010-151	石片	緑色岩	23.0	11.6	4.0	1.1	177.5	
2	2	KON2010-152	折断剥片	無斑晶質安山岩	33.7	28.3	1.0	9.7	176	
3	1	KON2010-153	折断剥片	無斑晶質安山岩	62.7	43.1	10.1	26.8	179	
4		KON2010-154	剥片	無斑晶質安山岩	20.3	36.3	14.5	7.6	174.5	
5		KON2010-155	碎片	無斑晶質安山岩	5.1	5.2	1.2	0.0	169.5	
6		KON2010-156	碎片	無斑晶質安山岩	5.5	5.2	1.9	0.0	184	
7		KON2010-157	剥片	無斑晶質安山岩	45.2	12.5	7.3	4.5	183	
8	6	KON2010-158	剥片	無斑晶質安山岩	49.9	19.4	10.3	8.1	184	
9		KON2010-159	碎片	無斑晶質安山岩	7.4	10.1	2.5	0.2	185	
10		KON2010-160	碎片	無斑晶質安山岩	—	—	—	—	191	不明
11		KON2010-161	剥片	無斑晶質安山岩	31.3	34.0	12.4	7.4	194.5	
12		KON2010-162	剥片	無斑晶質安山岩	29.2	25.5	11.3	6.6	193	
13		KON2010-163	石片	緑色岩	24.5	12.3	9.0	2.4	198.5	
14		KON2010-164	剥片	無斑晶質安山岩	32.7	25.4	12.1	7.0	178.5	
15		KON2010-165	剥片	無斑晶質安山岩	38.5	14.1	12.7	5.1	173	
16	4	KON2010-166	折断剥片	無斑晶質安山岩	23.1	15.6	4.9	1.5	179.5	
17	7	KON2010-167	剥片	無斑晶質安山岩	30.6	41.5	12.4	13.8	185	
18	5	KON2010-168	剥離痕のある剥片	無斑晶質安山岩	55.0	34.8	17.8	27.2	168	
19	3	KON2010-169	折断剥片	無斑晶質安山岩	19.7	16.8	6.1	1.7	192	



第4図 金剛萱遺跡の石器 上：表面 下：裏面

1～4は折断剥片である。1は横長の中形剥片の末端側を折断で除去して、台形状の形状に仕上げている。反対側は幅の広い平坦打面である。

2は小さな剥片の側縁の一部を折断で除去したもので、台形状の形状に仕上げている。

3は小さな剥片の側縁と末端部を折断で除去したもので、鋭角の断面の側縁部を生かして刃部としている。

4は小さな剥片の打面側を折断で除去したものである。

5は厚手の縦長剥片を用いて、側縁に2回の小剥離が入れている。使用されたものと思われる。

6・7は厚手で小形な剥片である。

いずれも風化色は黒灰色で、新鮮面は黒色ち密な無斑晶質安山岩であり、八風山産と推定される。

おもな遺物の出土層序はATより下位の暗色帯中であるが、場所によって多少の出土の高低差がみられる。この高低差は遺物の時間差でなく、本来同一の文化層に属していたものが二次的に上下に拡散したものと考えられる。年代は約3.8～3.2万年前、群馬編年のI期（小菅ほか 2004）、武蔵野編年のX層からIX層にかけてと比定される。

#### 金剛萱遺跡第12回調査の意義

林道地点第12回調査は、第11回までに調査していた場所の残りの包含層を完掘し、年代測定用試料の採集が目的であった。前回までと引き続き、暗色帯中の無斑晶質安山岩の剥片を中心とするブロックである。このブロック内の遺物は、無斑晶質安山岩が圧倒的に多いこと、打面調整があまり行われず、平坦打面によるやや厚めの幅広で寸まりの剥片剥離がおこなわれていること、定型的な石器完形品はなく、剥片等が中心であることなどの特徴がみられる。このブロックでは、接合資料を含み折断剥片が多く確認されている。剥片を折断加工して台形様石器としての用途で利用したものと推定される。

本ブロック外の約5m北側のE3グリッド北部より局部磨製石斧1点が出土している（金剛萱遺跡研究会 2016）。石斧は今回の無斑晶質安山岩製石器群と同時期か比較的近いものと考えられる。局部磨製石斧と台形様石器としての機能を有する「折断剥片」に代表される後期旧石器時代前半期初期の所産と考えられる。さらに層位はATより下位で32,951～32,333 cal BCと推定されるYt-Pm4（大

石 2015) の付近に主要な包含層があることなどから、後期旧石器時代前半期の中でも最初期に属す可能性もある。

金剛萱遺跡林道地点の石器群は、岩宿遺跡（岩宿Ⅰ石器文化）と同じ時期にあたり、群馬県西部から長野県東部では、甘楽町（甘楽SA）の白倉下原遺跡、天引向原遺跡や安中市の古城遺跡、佐久市八風山遺跡群、立科F遺跡などこの時期の良好な石器群が知られている。金剛萱遺跡は地理的にはこれらの中間を埋める位置にある。金剛萱遺跡は、標高680 m以上の独立峰の高い山の山頂近くに立地しており、なぜこのような立地に遺跡があるのかは、今後の課題である。

## 文 献

大規模地すべり研究会（2016）地すべりによる金剛萱遺跡の平坦面形成。下仁田町自然史館研究報告，1，25-36。  
関東火山灰グループ（2009）群馬県甘楽郡下仁田町で見つかった下仁田ローム層の砂粒組成。群馬県立自然史博物館研究報告，13，87-93。

## （要 旨）

金剛萱遺跡研究会（2021）金剛萱遺跡の旧石器文化6-2020-。下仁田町自然史館研究報告，6，55-60。

下仁田町青倉の金剛萱遺跡林道地点で、2020年に1回の調査を行なった。この調査で後期旧石器時代前半期の石器など19点が出土した。石器として使用したと推定される折断剥片、石器素材となる剥片などである。これらは八風山産と推定される無斑晶質安山岩を石材としている。

小菅将夫・大工原豊・麻生敏隆（2004）群馬の旧石器。みやま文庫，175P。

金剛萱遺跡研究会（2016）金剛萱遺跡の旧石器・縄文文化。下仁田町自然史館研究報告，1，1-20。

金剛萱遺跡研究会（2017）金剛萱遺跡の旧石器2-2015・2016-。下仁田町自然史館研究報告，2，51-58。

金剛萱遺跡研究会（2018）金剛萱遺跡の旧石器3-2017-。下仁田町自然史館研究報告，3，23-26。

金剛萱遺跡研究会（2019）金剛萱遺跡の旧石器4-2017・2018-。下仁田町自然史館研究報告，4，37-44。

金剛萱遺跡研究会（2020）金剛萱遺跡の旧石器5-2019-。下仁田町自然史館研究報告，5，27-34。

金剛萱遺跡研究会「下仁田自然学校文庫8」編集委員会編著（2014）金剛萱に旧石器時代をさぐる-金剛萱遺跡と下仁田ローム層-。下仁田自然学校文庫8，56P。

大石雅之（2015）八ヶ岳火山の最新軽石噴火による Yt-Pm4 テフラの放射性炭素年代。火山，60，477-481。

## 調査参加者

（2020年10月2日-4日）

麻生敏隆，今井 洋，小林忠夫，斉藤尚人，桜井 冽，須藤隆司，関谷友彦，寺尾真純，中村由克，山田誠司 以上10人